

『ニッソーネットのふくし通信』

vol.4 2011年7月

～3・11 首都圏の保育園では・・・～

災害を通して学んだ防災のポイントと、夏の電力不足の影響について

福祉の人材サービスおよび育成を行う株式会社ニッソーネット(本社:大阪市北区、代表取締役社長:山下謹吾)は、福祉に関する情報をまとめたニュースレター『ニッソーネットのふくし通信』を発信しております。複雑でわかりにくい各種制度の解説や、介護・保育などに関する旬の情報をお届けすることで、福祉への関心や理解をより深めていただけたらと考えております。

【vol.4 の内容】

3月11日に起きた東日本大震災。早くも5ヶ月が過ぎようとしています。震災当日、首都圏にある保育園の園児や保育士はどのように過ごし対応していたのか、そして、今後予想される夏の電力不足対策についてなど、ニッソーネットの人材サービスをご利用いただいている保育園の方にうかがいました。

今回の内容に関してのご質問や、業界全体の動向など、情報提供のご協力、ご取材などのご依頼も随時承っておりますので、お気軽にお問合せいただけると幸いです。

【1】東京都 中野区 認可保育園 園長

Q. 地震発生時の施設の状況や園児の様子はいかがでしたか？

A. 電気・ガス・水道は、通常通り使用できました。また、建物の損壊や備品・遊具の転倒・転落もありませんでした。地震発生直後、子ども達に若干の混乱が見られましたが、職員が適切な対応をし、パニックになる子どもはいませんでした。余震の発生など、不安に感じる子どももいたので、事前に作っていたサンドイッチを食べてもらうことで、落ち着きを取り戻していきました。

Q. 地震発生直後、最初にしたことは何ですか？

A. すぐにラジオをつけ、ワンセグ携帯でテレビのニュースを見ながら、状況確認と安全確保の会議を早急に行い、緊急時にすぐ対応できるよう、全ての子どもを1階に集めました。散歩に出ている年長組は、防災頭巾を持って迎えに行き、徒歩7分程度ある分園とは連絡を取り合って、状況確認を随時行いました。

Q. 保護者の方への連絡・引き渡しはスムーズに行えましたか？

A. 電話回線自体は4本ありましたが、保護者の方からの電話は、代表番号1本で受けているため、つながりにくい状況が続きましたが、それ以外は大きな混乱もなく、スムーズに引渡しができました。ただ、数名の保護者の方に関しては、移動手段がなく、深夜や早朝に来られたので、その間、園長・副園長・主任を中心に、帰宅困難な保育スタッフとともに保育を行いました。

Q. 日ごろから準備をして役に立ったことはありますか？

A. 普段から頻繁に防災訓練を行っていたので、保育士も落ち着いて行動できたと思います。備品など、事故の起きづらい環境設定をしていたので、大きな転落もありませんでした。

Q. 今回の地震の経験を活かして改善したことはありますか？

A. 備品・設備に関しては、①災害に強いアナログ回線(有線電話)を1本増設し、②非常食のおやつ、職員の食べ物、水、ヘルメットなど備品の数を増やし、③新しく簡易式トイレを購入しました。安全管理に関しては、①公衆電話の位置を確認し、②お散歩マップで危険な場所を再確認しました。

Q. 準備をしておけば良かったことはありますか？

A. 館内放送の準備はしていましたが、新規で設置したばかりだったので活用することができませんでした。

Q. 夏の電力供給不足に向けて、各企業がサマータイムの導入や土日出勤・平日休日にし、勤務日・勤務時間をずらして対応しようと取り組んでいます。それに伴う対応策を考えていますか？

A. 現在ではあまりニーズはないようです。早朝保育の人数が増えるかもしれませんが、十分対応可能です。

【2】東京都 中野区 認可保育園 園長

Q. 震災当日の保護者の方への連絡・引渡しはスムーズにできましたか？

A. 学研が販売している『園ぴゅう太』*のシステムで保護者の方に引き取りの依頼を一斉メールすることができたため、スムーズに連絡がとれました。また、お迎えチェックリストを作成し、漏れがないよう注意をしました。

Q. 日ごろから準備をしていて役に立ったことはありますか？

A. 日々の防災訓練は非常に役に立ちました。ただ、『園ぴゅう太』はパソコンだけでなく携帯からも一斉メールが配信できるので、園の連絡手段として携帯電話を準備しておけば、もっと活用できたと思います。現在は、各クラスに1台ずつ携帯を設置し、対応しています。保護者の方に対して、『園ぴゅう太』の登録は任意でしたが、今後は100%登録していただくよう呼びかけていきたいと思っています。

Q. 保護者の方からの要望で多くなったことはありますか？

A. ①給食なども含め、災害時でもできる限り、通常通りの保育を継続してほしい
②使用する水に対して、放射能対策をしてほしい→放射能の除去が期待できる浄水器を後日購入しました。

Q. 夏の節電対策は、どのように考えていますか？

A. 事務所の照明を間引きして使用することや、扇風機の設置を考えています。中野区は計画停電エリアから外れていますが、突発停電時の熱中症対策を現在検討しています。

※【園ぴゅう太とは？】 <http://catalog.hoikucan.jp/enpyuta/top.html>

株式会社学研ホールディングスが提供するさまざまなITサービスの総称。幼稚園、保育園、学校やその他の教育施設を対象にe-mailを活用したコミュニケーションシステムと、GPSを利用した送迎バスのロケーション(現在位置の確認)システムのサービスがあります。

【3】埼玉県 さいたま市 南区 家庭保育室 保育士

Q. 地震発生直後、不安になっている子どもを安心させるために、何か工夫したことはありますか？

A. 揺れがおさまってから、1歳児で泣いて動き回る子は、おんぶしました。先生の『大丈夫！』の言葉で安心する子もいました。地震発生直後は、テレビをつけ、ニュースを見ていましたが、余震が落ち着いた頃に、アンパンマンのビデオを見たり、安全に配慮しながら、おやつの時間にしました。

Q. 保護者の方への連絡はスムーズにできましたか？

A. 電話回線がパンク状態で、なかなか園に連絡できなかった親御さんが多かったですが、小さい子を預けているため、心配で何度も電話をする方が多かったようです。

Q. 保護者の方からの要望で多くなったことはありますか？

A. 赤ちゃんの粉ミルクを作る水に対して心配した親御さんがいました。

Q. 地震発生から時間が経過するとともに、子どもの様子に変化はありましたか？

A. 【翌日】お迎えに来られなかった子どもは非常食を食べて一泊し、朝お迎えに来てもらって帰宅しました。

【1週間後】余震が起こると、おもちゃを置いて集まることがすぐにできていました。

【1ヶ月後】頻繁に地震は起こらず、起きても小さな揺れだったので、通常保育をしていました。
子ども達も普段と変わらなかったです。

【2ヵ月後】ほとんど地震がなかったので、元気いっぱいでした。

Q. 夏に電力の供給が不足すると、保育士の仕事をする上で、困ることはありますか？

A. 照明に関しては、夏は明るいので問題ないと思いますが、夕方から夜は暗い中での保育になってしまうため、注意が必要です。また、遊びに制限が出てきてしまうので、子ども達に飽きがこないよう遊びに工夫をしていきたいと思っています。

【4】東京都 中野区 認可保育園 保育補助

Q. 地震発生から時間が経過するとともに、子どもの様子に何か変化はありましたか？

A. 地震発生から1週間後くらい、揺れに敏感な子どもは不安な様子でした。1ヵ月も経つと、揺れに対することより大人の様子で不安を感じ取っている子どもが多かったようです。現在は地震もおさまり、落ち着きを取り戻したのではないかと思います。

Q. 備蓄品で強化・補充をしたものはありますか？

A. おんぶ用の紐とライトを増やし、当日食べたパンとおかしは補充しました。

Q. 今回の地震の経験を活かして改善したことはありますか？

A. しまっていたおんぶ用の紐や防災頭巾を取り出しやすい位置に置きました。また、クラスに1台、各部署の責任者に1台ずつ携帯を持つようになりました。

Q. 電力が不足すると、保育士の仕事をする上で困ることはありますか？

A. 冷房が使えないことによって熱中症になるのではないかと不安です。

総括

震災当日は、日ごろの防災訓練の効果を発揮し、大きな混乱や子ども達がパニックになるといったことはなかったようです。被災地である岩手県野田村の保育所でも、月に1回、防災訓練を欠かさず行っていたため、津波警報・注意報が発令された場合に浸水が予測される「非難区域」であったにも関わらず、90名の園児が無事に非難することができたという報道もありました。

また、夏に向けて、どの保育園でも電力不足は予想がつかない状況で、節電の影響で子ども達や保育士が熱中症にならないよう、対策を検討しているようです。サマータイムや時間差出勤による早朝・夜間保育や、土日保育については、まだあまりニーズが出てきていないようでした。

保護者と保育園との連絡ツールについて、ある施設では携帯メールが一番良い方法と考え、震災後は、保護者のメールアドレス取得の徹底を促していました。保護者へのメール一斉配信は、関西では2001年大阪府池田市で起きた付属池田小殺傷事件を期に普及したようですが、関東ではまだ導入例が少なかったのではという意見もありました。

【会社概要】

介護士・看護師・保育士を中心とした福祉業界への人材サービスや、シニア人材サービスを行うほか、ホームヘルパーや介護福祉士などの資格講座を実施する「ほっと倶楽部」も運営。スタッフの資格取得から就業までをトータルにサポートし、高齢者福祉施設を中心に安定した人材の供給を図っています。

社 名：株式会社ニッソーネット

代 表 者：代表取締役社長 山下 謹吾、代表取締役専務 山下 吾一

設 立：1999年9月

U R L：<http://www.nissonet.co.jp/>

資 本 金：1,000万円

売 上 高：23億(2011年1月期)

従 業 員 数：85名(2011年4月現在)

本社所在地：大阪市北区芝田1-4-14 芝田町ビル2F TEL:06-6375-2111(代) FAX:06-6375-1717

支 社：南大阪支社、神戸支社、東京支社、横浜支社、さいたま支社

【「介護教室ほっと倶楽部」の取組みと実績】

「ほっと倶楽部」では、様々な資格講座やセミナーを開催し、介護の人材育成を行っています。

- 資格講座：ホームヘルパー2級講座、介護職員基礎研修、介護福祉士、ケアマネジャー対策講座など
- 介護セミナー：認知症の方への対応、リスクマネジメントなど

介護スタッフとして働きながら資格を取得できる、ニッソーネットの「資格取得支援制度」により、毎年1,000名以上の新人介護スタッフを育成し、高齢者福祉施設を中心に派遣・紹介しています。



<本件に関するお問合せ>

株式会社ニッソーネット 広報担当 大西 TEL: 0120-518-739 E-mail: onishi@nissonet.co.jp